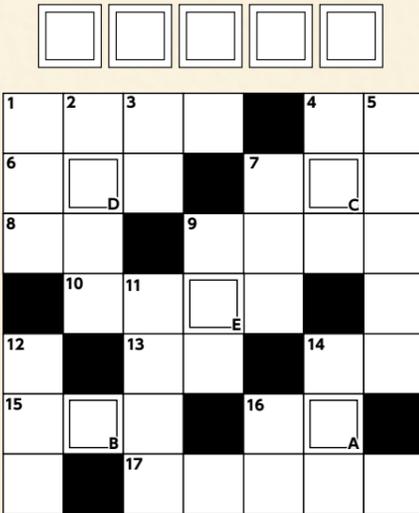


Merのキーワード! Crossword Puzzle クロスワードパズル

正解者から抽選で5人にクオカード(2000円分)を差し上げます。

□のマス目に「答え」が隠れています。パズルに言葉をあてはめ、□□□□□の5文字を並べ替えてください(今号は「水人之交」にヒントがあります)。タテ・ヨコのカギには特集記事にまつわる言葉もあります。ぜひ、チャレンジしてみてください!

二重マスを並べ替えてできる言葉



タテのカギ

- 1 「櫛」の読み方は? すらりとした指と白い手をほめる言葉「○○○○○のような手」。
- 2 関西での呼び名はガンラ。毒のあるトゲを持つ魚。エレベーターでは「R」と表記。
- 3 ○○○の上にも三年。
- 4 「枯渴」の読み方は? 焼いた生地にザラメをつけた主に長方形の和菓子。マンホールトイレの整備が進む広域○○○○場所(4ページ)。
- 5 四字熟語「○○○万象」。
- 6 ○○○満々の表情。
- 7 焼いた生地にザラメをつけた主に長方形の和菓子。
- 8 マンホールトイレの整備が進む広域○○○○場所(4ページ)。
- 9 「枯渴」の読み方は? 派手な○○○。
- 10 四字熟語「○○○万象」。
- 11 ○○○満々の表情。
- 12 焼いた生地にザラメをつけた主に長方形の和菓子。
- 13 マンホールトイレの整備が進む広域○○○○場所(4ページ)。
- 14 「枯渴」の読み方は? 派手な○○○。
- 15 四字熟語「○○○万象」。
- 16 ○○○満々の表情。
- 17 焼いた生地にザラメをつけた主に長方形の和菓子。

ヨコのカギ

- 1 ねぎらいのために楽屋などに届ける飲食物。
- 4 =フェイス。
- 6 「辛子」の読み方は?
- 7 ためしにつくる○○○品。
- 8 四字熟語「○○壮大」。

- 9 真言密教はじまりの地(3ページ)。
- 10 お祝いに○○○○付きを用意。
- 13 一○○先は闇。
- 14 ○○乙つけがたい作品。
- 15 「噉」の読み方は?
- 16 =絵描きさん。
- 17 リラとも呼ばれるモクセイ科の落葉低木。

パズルの応募方法

EメールまたはFAXで、①パズルの解答「□□□□□」②住所・名前・電話番号③本誌を受け取った場所④今号で印象に残った記事⑤Merへのご感想を記入し、右記宛先へ。送信は1人1回のみ(複数応募は無効)とさせていただきます。

宛先

メール: koueki@uitech.jp
FAX: 06-4963-2087
締め切り/12月28日(土)。

※前号の答え= **タタミテイ** でした。多数のご応募、ありがとうございました。

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。本誌は、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しています。この冊子を通じて、これから水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

バックナンバーはホームページに掲載しています。

人と地球のうらおい
マガジン・メール
2024年10月号

発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5-206号 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <https://uitech.jp/>

人と地球のうらおいマガジン

FREE
magazine

[メール]

Mer

vol.37
2024
October

清流紀行 P02

「清滝川」(京都市北区・右京区)

ガイアの瞳 P04

「もしもの時に!知っておきたい
~下水を活用した『マンホールトイレ』~

すいじんのまじかり
水人之交 P08

「誇り高き伝統を紡ぐ『杉原紙』」
(兵庫県多可郡)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

クロスワードパズル P16

清流を間近に感じながら歩ける錦雲溪(清滝川)

清流紀行

清滝川
(京都市北区・右京区)

ハイカーたちに親しまれる



交通アクセス

バス: JR京都駅からJRバスか市バスで「高雄」下車、徒歩約5分



四季折々の渓谷美をもつ

清らかな流れ

陽光を受け、水面がエメラルドグリーンに見える清滝川

紅葉も楽しめる 洛西の名所

京都市北区・右京区を流れる淀川水系桂川支流の清滝川。その名前のとおり、清らかな水の流れに癒やされながら川沿いの道を歩くハイキングコースが親しまれています。高雄から清滝までの上流部約4kmは「錦雲溪」、清滝から桂川(保津川)合流地点までの下流部約1.5kmは「金鈴峡」と呼ばれ、いずれも色鮮やかな紅葉の名所です。

ハイキングの出発地点・高雄へはJR京都駅から、バスに揺られること約50分。にぎやかな街中から少しずつ静寂に包まれた渓谷へと、車窓からの景色の変化も楽しみながら向かいます。仁和寺や三宝寺、平岡八幡宮など神社仏閣の多いルートでもあり、リュックサックを背負った訪日外国人客が乗り降りする様子も日常の風景です。取材日は猛暑の頃でしたが、高雄のバス停に降り立つと、心なしかひんやりとした空気が感じられました。バ

ス停から10分ほど下っていくと、高雄山神護寺の参道前に到着します。長い長い階段の先に立つ趣たっぶりの神護寺は、真言宗の古刹。階段の途中には茶店や食事どころがあり、ひと息つくのもおすすめです。弘法大師ゆかりの地で、薬師如来像や源頼朝の肖像画をはじめ、数々の国宝がまつられています。



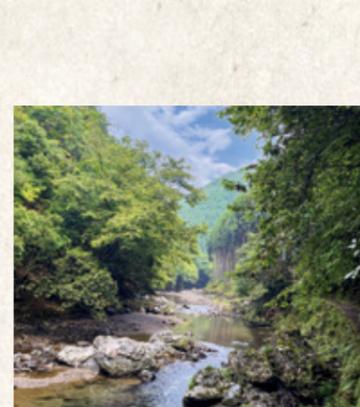
風情たっぶりの山門が迎えてくれる「神護寺」

ダイナミックな自然美に癒やされて

川沿いの道は東海自然歩道に指定され、高低差がほとんどなくハイキング初心者も気軽に楽しめるコースです。高雄からスタートし、ゴールのバス停・清滝を目



夏場の川遊びに最適な浅瀬も



さまざまな自然の表情を楽しみながら



空へと真っすぐ伸びる北山杉は圧巻



高雄のマスコット「高雄もみじちゃん」



いくつかの橋を渡ります



秋には紅葉に彩られます



道中に立つ案内板でルートを確認

指しましょう。清滝川に沿って細い砂利道を歩いていると、聞こえてくるのはせせらぎの音。澄み渡った川の流れとエメラルドグリーン美しい水面を眺めながら、ゆっくりと進みましょう。錦雲溪と呼ばれるこのエリアは、秋には紅葉目当てに多くの見物客が訪れますが、色づく前の「青もみじ」も爽やかでフレッシュな印象。川遊びを楽しむ家族連れや愛犬の姿もあります。

歩を進めると、真っすぐに立ち並ぶ北山杉の凛とした姿やダイナミックな岩々など、次々に現れる自然美が目を楽しませてくれ、非日常感たっぶり。また、高雄橋や清滝橋をはじめ、スタート地点からいくつかの橋を渡るのも道中の魅力です。風情ある橋の上で、ぜひ深呼吸してリフ

レッシュを。清滝橋から南の落合橋までの流域は、ゲンジボタルの生息地として国の天然記念物(清滝川のゲンジボタル及びその生息地)に指定されているほか、特別天然記念物のオオサンショウウオも生息し、美しい鳴き声を持つカジガエルを見ることが出来るそう。これらの生き物たちもまた、清滝川の水がきれいである証しと言えるでしょう。

最後は金鈴橋を渡り、バス停「清滝」までアスファルトの道を上ってゴール。約4kmのコースをのんびりと2時間ほどで歩くことができました。帰りのバスは、阪急嵐山駅を目指します。ちなみに、清滝からスタートし、高雄を目指す逆ルートのコースもあるそう。いずれもバスの本数が少ないため、事前に時刻表のチェックをお忘れなく。



ハイキングコースの入り口となる高雄橋

立ち寄り“水”SPOT

境内から錦雲溪を見晴らせる

神護寺



厳かな空気に包まれた「金堂」

高雄山の中腹、弘法大師・空海が14年の月日を過ごした真言密教はじまりの地。九つの国宝を有する古刹です。開基は平安遷都の責任者であった和気清麻呂(わけのきよまる)。清麻呂は大阪湾と長岡京を結ぶ水路を建設し、淀川水系の洪水対策のためにさまざまな治水工事も成した人物。境内には清麻呂の墓所があります。境内奥からは錦雲溪を望みながら厄除けの「かわらけ投げ」も行えます。拝観時間/9時~16時 拝観料/中学生以上 1000円、小学生 500円

ガイアの瞳

もしもの時に！知っておきたい ～下水を活用した「マンホールトイレ」～

災害が発生し、断水すると、家庭の水洗トイレは水を流すことができなくなります。地面に設置されているマンホールのふたを開けて、その上に便器等を取り付け、さらにプライバシーを守るためのトイレ室を設置する「マンホールトイレ」。迅速にトイレ機能を確認する簡易なトイレとして、広域避難場所や小中学校などに設営のための準備が進められています。

災害対応力の強化に向けた各自治体の取り組みや発信に着目し、官民連携での日々の備えについて理解を深めましょう。

テント式のマンホールトイレ(画像提供:尼崎市公営企業局)

避難所等でのトイレ機能を確認！ >>>>>

■マンホールトイレとは？

下水道管路にあるマンホールの上に簡易な便座や囲いを設け、災害時にトイレ機能を確認する「マンホールトイレ」。大阪市建設局は、「大阪市地域防災計画」に基づき、広域避難場所を中心にマンホールトイレの整備を進めています。

2024年1月の能登半島地震では、上下水道の被害で避難所のトイレが使えない状況に陥り、衛生環境の悪化や健康被害に関する状況も報道されました。災害時のトイレ対策に注目が高まる中、大阪市は33カ所の広域避難場所に計1450基分のマンホールトイレの配管システムと専用のマンホールふたを整備しています(2023年度末時点)。



大阪市が整備を進めている災害用マンホールトイレ



左/マンホールトイレを設置できる仕様のマンホールふた。ふたの中央を開けることができる。右/トイレ専用のふたも整備されている(大阪市)



兵庫県尼崎市が採用しているテント式のマンホールトイレの内部

■マンホールトイレの特徴

マンホールトイレは、下水道に接続した排水管を敷設し、大小便を下水道に流せる構造になっている「下水道接続」と、マンホールの下部に便槽を整備する「便槽貯留」の2タイプがあります。

大阪市が採用している下水道接続タイプは、有事にすぐ使用できることが特徴です。管の中に汚水(し尿)を1週間程度貯留できる仕組みとなっており、週に1回、水洗用水を投入して汚水を下水道管に直接流します。

一方便槽貯留タイプは、下水道に接続されていないため、最終的にはくみ取りが必要となります。



大阪市が整備を進めているマンホールトイレの構造(出典:国土交通省ホームページ)

【マンホールトイレのメリット】

- 1 地面に設置してあるマンホールのふたを開けて、その場にトイレ室を設置する
⇒トイレ入り口の段差を最小限に抑えられる!
- 2 下水道につながっている
(※下水道接続タイプの場合)
⇒便器洗浄水やトイレ掃除に使った水、トイレットペーパー等を通常の水洗トイレと同様に便器内に流すことができる!
- 3 便器およびトイレ室の組み立てが比較的容易である
⇒災害時、迅速にトイレ機能を確認することができる!

マンホールトイレの早期開設に向けた取り組み(大阪市)

大阪市は災害時のトイレ対策について、初期的には「備蓄トイレ」で対応。その後、「仮設トイレ」を必要数設置し、広域避難場所等で必要になった場合は「マンホールトイレ」を設置すると定めています。2024年8月、マンホールトイレを早期に設置するための地域説明会が、高殿西住宅集会所で開催されました。

当日は大阪市の下水道部および旭区役所防災安全課の担当者、地域活動協議会会長と自治会メンバーが参加。マンホールトイレの概要説明の後、日々の保管から発災時の組み立て、その後の運用などについて意見交換も行いました。後半には、車いす対応の仮囲いと便座の組み立てを実施。参加者はその手順を間近で見学しました。

「実際に組み立てる様子をご覧いただけ、また、住民の皆さんの防災意識の高さを感じることができました。目標は、自治会で1基分を保管し、早期に組み立てていただくことを合意していくことです。災害時に不可欠な自助・共助を啓発すべく、これからも各地域で説明会を継続していきます」(大阪市建設局 下水道部担当者)。



集会所で説明会が開催されました



車いす対応の仮囲いと便座のセット



実際に組み立てていきます



【問い合わせ】

大阪市建設局 下水道部 調整課
メール: la0086@city.osaka.lg.jp

官民が手を携え、「トイレ問題」を考えていくことが不可欠！ >>>>

■水道・下水道だより『ウォーターニュースあまがさき』

水道や下水道に関する身近な情報を発信する『ウォーターニュースあまがさき』（発行：尼崎市公営企業局）。幅広い年齢層に向けて、兵庫県尼崎市内の各戸に定期的に配布されています。第100号（2023年9月発行）のテーマは「応急給水拠点とマンホールトイレ」。市内マップを大きく掲載し、日頃からの備えについて写真やイラストで分かりやすく伝えました。その誌面を見た市内の小学生が書いた

作文『マンホールトイレ』が、第63回下水道いろいろコンクール（日本下水道協会主催/2023年度）の会長賞を受賞。「マンホールトイレについて調べてみたら、立派なトイレやん!とビックリして……」と、小学4年生（当時）の目線でいきいきと書かれた文章が話題を呼びました。

「まずは、知ってもらうことから。動画等の活用も視野に入れ、これからも市民の皆さんに役立つ情報を、親しみやすい形で発信していきます」（尼崎市公営企業局上下水道部担当者）。



応急給水拠点&マンホールトイレを特集した『ウォーターニュースあまがさき』



広域避難場所となっている小学校のマンホール



災害時にマンホールトイレが設置されます

なっています。これは、尼崎市の下水道の9割が合流式（雨水と汚水を一緒に流す）だからこそ、可能なこと。地下の貯水槽からマンホールトイレへ、仕切り弁の操作のみで大容量の水を供給できるので、電気が使えない災害時にも電動ポンプ無しで機能することが強みです。



マンホールトイレの水源に活用される「雨水貯留槽」

●地域の方々の協力が不可欠

テント式のマンホールトイレは、2人一組で組み立てます。慣れていない私たちが、一つあたり完成まで5分くらい。初めての方だと10～15分くらいでしょうか。組み立てに関する訓練は、地域の防災訓練の一コマとして要望をいただくことが多いですね。実際に参加された方の声は「簡単でした!」とか「やっぱり年をとると大変やなあ」とか、人それぞれ。小学校に出前授業で何うこともありますが、高学年のクラスだと、みんな楽しみながら手際よく組み立ててくれます。その子たちが家に帰って、ご両親にマンホールト

イレの話をしてくれるなど、防災について家族で話さきっかけになれば何よりですね。

実際に被災した時、下水道部門の職員が現地に駆け付けてこれを全てセットして……とできたらベストなのですが、私たちも下水道の本管の方の復旧作業に対応しなければならず、60力所以上ある避難所一つひとつを回るにも膨大な時間がかかります。地域の方々と相談を重ねる中で、「基本的には皆さんで設営作業を担っていただくと、早期にトイレ使用が可能になりますよ」とお伝えしています。そうすれば、より衛生環境も保ちやすく、健康被害も抑えることができるでしょう。

災害時はまず電気や上水に意識が向きがちですが、トイレは最初に問題が起こる率が高いのです。ですから、日頃からの備えは必須。ご自身でも携帯トイレ等を備蓄していただきながら、私たちもマンホールトイレの整備や周知活動を進めてまいります。ぜひ設営についても覚えて、力を貸していただけたら。官民そろってトイレ問題を考え、いつ起こるか分からない災害時に誰もが困らないよう、しっかりと備えていきたいですね。

災害時のトイレ問題解消を目標に、地域の皆さんへの呼びかけを一步ずつ

尼崎市公営企業局 上下水道部 下水道建設課：山本俊輔さん



●阪神・淡路大震災を教訓に

尼崎市では、災害時の避難所となっている小・中学校や高校計68校を対象に、マンホールトイレの整備を進めています。現在29校が整備済みで、今後は年6校ずつ施工予定です。マンホールトイレが開発されたきっかけは、1995年の阪神・淡路大震災で起こった深刻なトイレ問題です。その後、神戸市とメーカーの共同研究によって開発されたマンホールトイレを、当市でも使っています。その特徴の一つは「地震に強い管」であること。地中の管の中に水をためておき、1

日1回仕切り弁を開けて一気に水を流す。簡易水栓のような仕組みになっています。

ハード面で言うと、一定量の水（1日約1000リットル）を必要とするマンホールトイレ。その水源は、雨水貯留槽やプール、応急給水栓です。尼崎市で使われている雨水貯留槽は、地面の下に大きな水槽が埋まっているイメージ。普段は目に見えないですが、雨水をためておいて、災害時にはマンホールトイレに供給します。また、集中豪雨時には一時的に水をためることもできるので、浸水被害の軽減にも機能する構造に



災害時の応急給水栓。ホースをつなぎマンホールトイレに給水もできる



排水用の仕切り弁。引き上げると水が流れる仕組み



天井および入り口に発光ダイオード(LED)ライトをセット



簡易の鍵がついています

【問い合わせ】
 尼崎市公営企業局 上下水道部 下水道建設課
 メール: ama-gesuidou-ijisokushin@city.amagasaki.hyogo.jp

 ▲ホームページ



車いすのまま入れる広さのマンホールトイレ



重さは約9kg

水 人 之 交

すいじんの
まじわり

清流が育む色と
風合い、日本最古
の和紙づくり

誇り高き伝統を紡ぐ

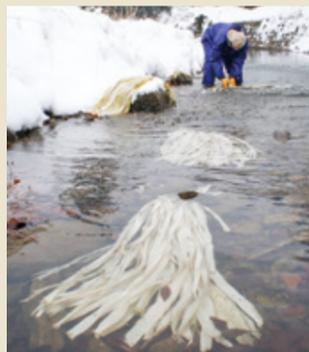
すぎはらがみ
「杉原紙」(兵庫県多可郡)

兵庫県の真ん中あたりを南北に流れる杉原川で、1000年以上続く伝統製法により生み出されている高品質の「杉原紙」。他にはない自然な白さをもつ和紙で、楮100%、手すき100%の「杉原紙品質」が職人の手によって受け継がれています。清流が守り、育てきた伝統工芸品の今、さらなる発展を願う人々の思いにせまります。

Topics

白さに磨きをかける、極寒の「川さらし」

「雪も白いが紙はなお白い」……これは、杉原谷に古くから伝わる「紙すき唄」の一節。地元でとれる原料の楮は他の産地のものより白く、さらに「川さらし」の工程を経ることで、その白さに磨きがかかるのだそう。雪舞う極寒の頃に、楮の白皮を水中に一昼夜浸すのが川さらし。杉原川を流れる澄んだ雪解け水は、冷たさが持続するため繊維を傷めずあく抜きをすることができます。また日光の力で色素を白く変化させ、薬品を使わずに美しく自然な白さを生み出しています。



毎年1～3月に行われる川さらしは、冬の風物詩



北播磨で生まれた杉原紙

兵庫県多可郡の北部・杉原谷で生まれた杉原紙。1300年の歴史をもつ播磨紙の系統を引くと考えられ、今もいにしえの技を受け継いでいます。多可町加美区の奥深い谷からこんこんと湧き出る冷たく澄んだ水と、雪の舞う厳しい気候風土から生まれるこの和紙は、温かみのある白さと柔らかな質感が特徴です。

古代の杉原紙は、品質も生産量も全国で1、2位を争うほどで、鎌倉時代には幕府の公用紙にも採用されたそう。室町時代中期からは少しずつ庶民にも普及し、「杉原紙」と呼ばれるように。江戸時代には日常生活でも親しまれ、その名が全国に広がりました。数多くの古文書にも登場する杉原紙は、日本有数の名紙として、和紙文化の発展に大きく寄与してきました。



クワ科の落葉低木、楮。原木50kgから和紙1.5kgが作られます(約3%)



書道や絵手紙など、芸術分野でもファンの多い杉原紙



名紙再興へ～「杉原紙研究所」設立!

明治維新以降、ヨーロッパで発明された機械による製紙法が日本に上陸し、全国的に手すき和紙の生産が激減。杉原谷もその影響をまともに受けることとなり、大正14年以降は発祥も不確かな「幻の紙」となっていました。

昭和15年、和紙の研究者・寿岳文章氏が杉原紙のルーツを調べて、杉原谷村を訪問。この地に間違いのないことを論文として発表し、輝かしい歴史と伝統を誇る杉原紙を復活させるべく、昭和40年に「杉原紙研究会」を発足。大正期の最後まで紙すきに携わっていた職人の経験を頼りに、杉原紙を再現することに成功しました。昭和47年には、町立の施設「杉原紙研究所」が誕生。「幻のまま

ではもったいない。ぜひ復活を!と強く願う、当時の加美町民(※)の熱意も後押ししてくれたのだと思います」(藤田尚志所長)。

その後、日々の努力とさらなる研究を重ねた結果、昭和58年には兵庫県の重要無形文化財の認定を受け、平成5年には兵庫県伝統的工芸品に指定されるまでになりました。原料の楮は、再興当初は他の産地から買っていました。地元有志らが栽培面積を増やし、現在はほとんどが多可町産に。また、平成7年からは町づくりグループの協力のもと、町民全世帯参加による「一戸一株栽培運動」を展開しています。 ※現在は多可町と合併



「いろいろ使ったけれど、この紙が一番!と言っていただけとうれしいですね」(藤田所長)



和紙の制作工房「杉原紙研究所」



杉原紙の製造工程を自由に見学できます



通気性の良い杉原紙で作られた座布団カバー



杉原紙ができるまで

楮を育てるところから、完成した和紙の選別まで10以上の工程があり、全てを産地内で手作業で行っています。川さらしや紙すきなど、重要な作業に杉原川のきれいな水がたっぷりと使用されています。

- 1 【かる】楮狩り
一年で2～3m近く伸びた楮を刈り取る(12～1月)
- 2 【はぐ】皮はぎ
蒸した楮の樹皮を熱いうちに剥ぐ(1～2月)
★皮を水に浸ける
- 3 【けす】黒皮取り
黒皮(外皮)を包丁で削り取り、内側の白皮だけに(1～3月)
- 4 【さらす】川さらし(1～3月)
白皮を杉原川に一昼夜浸し、冷水・日光などの自然の恵みを利用して繊維を白くする
★乾燥した白皮を水に戻す
- 5 【とる】傷取り
傷(虫食いなどで硬くなったり黒ずんだ繊維)を取り除く
- 6 【たく】釜だき ★白皮を一日水に浸す
アルカリ性のお湯で煮て、繊維を柔らかくする
- 7 【のぞく】ちり取り ★水で洗い流す
煮えたら清水で洗ってあくを抜き、不純物を取り除く
- 8 【たたく】紙たたき
繊維をほぐすために白皮をたたく(ほぐれた繊維=「紙料(しりょう)」)
- 9 【すく】紙すき ★たっぷりの水の中ですく
水を張ったすき舟に紙料とネリ(トコロアオイの粘液)を入れ、木枠の「桁(けた)」を使って一枚ずつすく⇒湿紙を積み重ねる
- 10 【ほす】紙干し
水分を絞った紙を一枚ずつはがし、干し板や鉄板に貼って乾燥させる
- 11 【えらぶ】検品
最後は目視で検品して納品、または店頭へ完成! >



川さらし



釜だき



紙すき





杉原川のほとりにある「杉原紙の里」と周辺MAP

① 和紙博物館「寿岳文庫」



見学無料

故・寿岳文章氏が所蔵していた和紙に関する資料を展示

② 紙匠庵「でんでん」



杉原紙と和紙を使った小物も購入できる

③ 展示・体験工房



観覧無料

書や絵手紙などの企画展&紙すき体験(有料/要予約)



④ 杉原紙研究所



★川さらしの様子は1~3月に見学できます。事前に左記電話へお問い合わせください。



●杉原紙の里
兵庫県多可郡多可町加美区鳥羽768-46
電話:0795-36-0080
休館日:水曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

⑤ 青玉神社

⑥道の駅「杉原紙の里・多可」

杉原紙の里から川を渡ってすぐの道の駅



Topics

グループで楽しめる!手軽な「紙すき体験」

世界にひとつ、オリジナルの和紙を作ることができる「紙すき体験」。紙をすいた後に好きな色を入れたり、木の葉を飾ったりと、楽しみながら和紙づくりの一工程が体験できます。体験後は1時間から1時間半ほど乾燥させてできあがり!「夏休みの自由研究に」「海外からの友人に日本ならではの体験を」と、遠方からの参加者も多い人気のプログラムです(体験時間:約20分/予約は杉原紙の里ホームページの予約フォームまたは電話で)。



上手にできるかな?



染料や紅葉を入れてオリジナルに

完成!



【料金】

はがき(2枚):無地(白)450円、木の葉・色付け550円~

【問い合わせ先】

杉原紙研究所:電話 0795-36-0080

▼ホームページ



interview

伝統ある地で、杉原紙の魅力伝え続けたい

杉原紙振興ボランティア:山口千晶さん



施設内の和紙博物館「寿岳文庫」と、紙匠庵「でんでん」を、私たちボランティアが交代で切り盛りしています。この活動の前身は、昭和60年に結成された杉原紙同好会。商品開発や講座を通じて、広く杉原紙をPRしてきました。一時は休会に追い込まれましたが町内外の有志が立ち上がり、「縁あって復活した杉原紙のことをもっとたくさんの人に知ってほしい」と杉原紙振興ボランティアとして活動を再開しました。現在の会員は10人。杉原紙の歴史や魅力を語り継ぐ「語り部」と、私のように作品づくりや販売を担当する「杉原紙

愛好会)に分かれ、それぞれ得意分野を生かして活動しています。

和紙づくりにとって、水は非常に重要な要素です。紙すきなどの工程でたくさんの水を使いますが、カルキを含む水道水より自然の水のほうが好ましい。杉原川のきれいな水があつてこそ、この美しい紙が生まれるのです。お店からのぞむ清流は日常の風景ですが、町全体で大切に守っていききたいですね。

平成23年からは、多可町内すべての小中学校(全8校)の卒業式に和紙のコサージュを贈っています。中学生にはバラ、小学生にはサザンカを。それぞれ、「祝福」「不屈の精神」という花言葉を持ち、これからの人生に幸あれと願いを込めながら一つひとつ手づくりしています。多可町敬老会に贈る喜寿のコサージュも、皆さんとても喜んでくださっています。また地元の小学校では、自分ですいた杉原紙を卒業証書に使う取り組みや、昭和61年から続く杉原紙を使った版画カレンダーづくりもあり、子どもたちにも文化が受け継がれていることが励みになっています。

杉原紙の魅力は、なんと言ってもこの温かみ、ふんわりと優しい風合いですね。日本で最初に和紙が生まれたと言われるこの地を誇りに思い、絶やすことなく引き継いでいきたい。最近では全国各地の和紙産地に足を運び、ほかの地域での和紙への取り組みを学ぶ機会も。さらなる杉原紙の発展を願い、これからも仲間と共に活動できたら何よりです。



ボランティアメンバーによる手づくり品も人気



小中学校の卒業生に贈られる和紙のコサージュ



多可町内の小学6年生が毎年作る卒業証書



毎年小学校から届く版画カレンダー



山々に囲まれたまちを流れる杉原川



和紙づくりで廃棄する楮(白皮以外の部分)を加工したつえ(440円)

Spot

杉原を見守る鎮守の社 青玉神社

杉原紙の里から徒歩1分ほど。境内には樹齢700年~800年の大杉が群生しています。また、杉原川から流れ着く小さな池には青玉がまつられています。境内奥にある夫婦杉や乳の木(イチョウ)の神々しい姿も見所です。



国道427号沿いにたたずむ社



小池にまつられている青玉



靈気漂う「夫婦杉」



子どもの健やかな成長を願う「乳の木」(イチョウ)

楽しいイベントで下水道啓発

地域別17種類のマンホール蓋で
デジタルスタンプラリーを開催しました

貝塚市は、昨年5月に市制施行80周年を迎えました。それを記念しまして、本市のイメージキャラクター「つげさん」を広報担当職員にデザインしてもらい、カラフルなマンホール蓋を市内17カ所に設置しました。マンホール蓋の絵柄は、設置している地域の特徴を生かしてかわいらしくデザインされており、道行く人の目を楽しませてくれています。



市制施行80周年を記念した17種のマンホール蓋デザイン

スマホアプリを活用した
夏休みにぴったりのイベントに

このマンホール蓋のデザインが“かわいい”と好評であったため「下水道への関心を高める」ことに使えないかと考え、デザインマンホール蓋をめぐるスタンプラリーをすることになりました。スタンプラリーは、スマホアプリを使いマンホール近くに来ると衛星利用測位システム(GPS)でスタンプが自動で押され、スタンプ8個で参加賞、17個すべてでコンプリート賞、また、参加者の中から抽選で協賛団体賞をお渡しすることにしました。

マンホール近くの店舗や事業者に声をかけて協賛を依頼しましたところ、皆さま快く協賛団体賞を提供してくださいました。期間中は714人の参加があり、439人の方が景品を受け取られ、その際に下水道の啓発パンフレットとアンケートをお配りしました。アンケートには、今後の下水道事業の運営に関することも書いていただき、貴重なデータを取ることができました。また、「楽しかった」「ラリー参加者同士で交流が生まれました」等の感想も頂き大変好評でした。ご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。



7月20日～8月25日に開催したデジタルスタンプラリーのポスター



南海電鉄貝塚駅改札前にある「まちの駅 かいづか」で景品をお渡ししました

※今回紹介した本事業は下水道の啓発を目的としたものであり、「一般財団法人都市技術センター助成金交付規程」に基づく助成金を交付しています。

大阪府内自治体の

下水道啓発事業に助成しています!

一般財団法人 都市技術センターでは、大阪府内の各自治体における下水道の適切な維持継続のための人材育成と、より一層の下水道事業促進を支援するため、下水道事業に従事する職員等が参加する研修、講習会の費用および大阪府内の各自治体が行うPR・啓発事業等に対して、2016(平成28)年度からその事業費の一部を助成しています。

現在助成している事業は次の三つで、各年度における助成実績は次のとおりです。

①マンホールカード作成助成事業(1団体1回のみ)

2016年度…6団体 227千円	2020年度…1団体 44千円
2017年度…12団体 454千円	2021年度…1団体 44千円
2018年度…12団体 454千円	2022年度…3団体 132千円
2019年度…4団体 170千円	2023年度…申請なし



府内の各自治体のマンホール蓋の写真、位置情報、デザインの由来などを記したマンホールカード

②一般助成事業(研修参加およびPR・啓発事業)

2017年度…4団体 175千円	2021年度…4団体 226千円
2018年度…9団体 1,389千円	2022年度…10団体 1,378千円
2019年度…8団体 1,206千円	2023年度…11団体 1,213千円
2020年度…4団体 648千円	



下水道の啓発活動に使われている吹田市下水道部のオリジナルトイレトーパー



貝塚市が開催した「つげさんマンホール デジタルスタンプラリー」

③大阪・関西万博機運醸成カラーマンホール作成にかかる助成事業(2024年度末まで)

2022年度…5団体 414千円
2023年度…20団体 1,585千円

引き続き当センターでは、センターが行う公益目的事業の一つとして、大阪府内各自治体の下水道にかかる啓発促進事業を、積極的に支援してまいります。

Mer vol.37の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

- ▶清流紀行 …… 高雄保勝会
- ▶ガイアの瞳 …… 尼崎市 公営企業局 上下水道部 下水道建設課
- ▶水人之交 …… 大阪市 建設局 下水道部 調整課
- ▶ …… 杉原紙の里(杉原紙研究所、展示・体験工房、紙匠庵「でんでん」、和紙博物館「寿岳文庫」)